

議会報告会報告書

開 催 日 時	平成 30 年 4 月 20 日（金）午後 7 時 00 分～8 時 33 分		
開 催 場 所	射和地区市民センター		
出 席 議 員	山本芳敬、中村 誠、谷口 聖、米倉芳周、深田 龍、堀端 脩、久松倫生		
	司会進行者	久松倫生	
	報 告 者	深田 龍	
	記 録 者	谷口 聖	
参 加 人 数	26 名		
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。		

松阪市議会議長 山 本 芳 敬 様

平成 30 年 4 月 26 日

議会報告会実施要綱第 8 条の規定により提出します。

議会報告会第 3 班

代表者 山本 芳敬

【第一部の主な質疑応答・意見等】

問 市街地から外れ、公共交通機関が少ない当地域においては、高齢者の運転免許証返納は難しい。買い物弱者が増加している状況だが、市営バスを走らせてもらえないか。

答 鈴の音バスや、地域のコミュニティバスの路線は毎年見直しを行っており、今年度も新たな路線が開通したが、当地域のコミュニティバスについてはまだである。市内のある自治会では、バス会社に業務委託し、コミュニティバスを自治会で運営している。

また、津市内ではタクシーを利用した、デマンドタクシーを運営し成功している事例もあり、そうした先進的な事例を参考にし、市内でもデマンドタクシーの導入に取り組んでいる自治会があり、モデルケースとして松阪市も注目しているところである。

問 市民病院について、他の病院との統合の話が出ているが、今後どうなっていくのか。

答 社会保障費の急増が懸念される２０２５年問題や人口減少が更に進む中、地域医療構想が出された。それによると、市内の３総合病院の急性期病床は５９２床が過剰、一方で回復期病床は３６４床が不足であり、今後３総合病院での存続は困難とされ、全国自治体病院参与、三重大医学部学長、市民病院院長など各方面からの有識者による松阪市民病院あり方検討委員会が設置され、１年間の検討を重ねた結果、平成３０年３月２７日に答申書が出されたが、市民病院の存続、他病院との統合といった明確な答申はなされなかった。市議会としては、地域医療を守るため特別委員会を設置し、地域医療構想の内容も含め１年間議論を重ねしっかりと協議をしていく。

問 住民協議会と自治会の役割は明確化されているのか。

答 住民協議会と自治会の役割分担が分かりにくいとお声を受け、市議会として、一昨年、住民協議会条例に対する付帯決議が可決された。竹上市長は、自治会は任意の団体ととらえているが、住民協議会は、行政がお願いして作ったとの見解を述べている。自治会、住民協議会、公民館としっかりと協議を重ね、この１年間で方向性を決めていく。

第2部用【地域防災について】

【主な質疑応答・意見等】

意見 近年、予期せぬ災害が発生している。当地域としても自治会やPTAなどと共に防災訓練を行っているが人口減少により、自助・共助の意識が薄れてきているように思う。地域防災に議会の協力を更にお願したい。

答 当地域においても、大規模太陽光発電施設の設置による土砂災害や小学校裏の急傾斜地など、沢山の課題を抱えていると認識している。また、自助・共助の意識のうすれなど、抜本的な見直しと内容の充実の必要があろうかと思う。地区防災については各地域の関心事であることから、議会としても努力していくので、これからも地域のお声を届けていただきたい。

答 太陽光発電施設の土砂災害の発生に対する懸念については、施工業者と住民による協議が大切になってくる。他地域では対話によって工事が中断されている事例がある。また、行政にも相談してほしい。

意見 地域防災計画は地域が主体となって作っていかなければならないと思うが、当地域にはため池が5つあり、決壊したら大変なことになる。地域防災計画の策定には行政も積極的に協力をしてほしい。

答 防災については、行政が主体となり各地域別で方向づける地域防災計画と、各自治会や、地区の消防団等や自主防災隊などによって計画される地区防災計画がある。地域防災計画は各小学校などにどのような備蓄がどれだけあるのかなど、松阪市全体の防災を計画していくものだが、地区防災計画はその地区の住民や住民協議会、また消防団などが主体となり地域に即した防災計画を作っていくものである。地域避難訓練やHUG（避難所運営ゲーム）などを行い、その地区に想定される災害について個別に考えていただきたい。また、行政としても、2年間をかけ地区防災計画の策定に向け力を入れていくとしており、議会にも皆様のお声を聴かせていただきたい。

問 避難所の運営については、ガイドラインのようなものを市が作ってもらうことはできないのか。

答 平成28年に松阪市は「災害にそなえる」という冊子を市内全戸に配布しました。また、皆さんの避難所には備蓄品がどれだけあるのかなどを、地域防災計画と照らし合わせていただき、松阪市と協議を進めていただくことで地区防災力の強化につなげていただきたい。

意見 少子高齢化が進み、農業従事者も減少している中、農業用貯水池の管理が難しくなってきた。豪雨によって貯水池の水位が上昇し決壊の恐れがある。水位上昇に対処

する排水路も農家の減少により放置されたままになっており、排水すら難しい。

治水の観点から何らかの対策を講じてほしい。

答 即答はできないが、大変懸念される事案だと思う。行政にもご相談されたことと思うが、議会としても調査、研究を行う。